

様式 1

本事業の自走化計画

1 自走化の実現に向けた取組内容【2 ページ以内】
<p data-bbox="261 432 512 465">1. 基金の造成</p> <p data-bbox="312 477 1337 734">2014 年度のスーパーグローバル大学創成支援事業採択後、構想調書において表明した事業目標の達成に向けて安定的に事業を推進するために、2015 年 3 月の理事会において、スーパーグローバル大学創成支援事業基金（第 3 号基本金*）を新設することを機関決定した。これは、2020 年度までの 7 年間、12 億円ずつ自己資金により組入れ、総額 84 億円の基金を準備するものである。その後 2017 年度までに、48 億円（12 億円×4 年）を計画通りに組み入れた。</p> <p data-bbox="312 745 1337 913">さらに、補助期間の終了後も、グローバル化に関する一連の事業の一層の充実・安定化を図るため、2018 年 3 月の理事会において、当該基金の組入れ期間を、補助期間が終了する 2023 年度まで延長し、組み入れ総額を増額することを決定した。</p> <p data-bbox="341 925 1098 958">これにより、総額 90 億円の基金が造成される見込みである。</p> <hr data-bbox="341 1025 1010 1030"/> <p data-bbox="341 1064 986 1093">2014 年度～2017 年度に毎年 12 億円×4 年＝48 億円</p> <p data-bbox="341 1111 571 1140">2018 年度に 2 億円</p> <p data-bbox="341 1158 973 1187">2019 年度～2023 年度に毎年 8 億円×5 年＝40 億円</p> <p data-bbox="341 1205 517 1234">合計 90 億円</p> <hr data-bbox="341 1256 1010 1261"/> <p data-bbox="341 1294 1337 1413">*第 3 号基本金：2018 年度末残高 731 億円。元本を継続的に保持運用することにより生じる果実を教育研究活動に使用するために、寄付者の意思又は学校法人独自で設定した奨学基金、研究基金等。</p> <p data-bbox="261 1473 708 1507">2. 学内経常費予算への内在化</p> <p data-bbox="312 1518 1337 1776">第 3 号基本金のうち、スーパーグローバル大学創成支援事業基金以外の既存の基金の果実や経常経費により実施される研究・教育活動の中にも、グローバルな研究・教育活動に資するものが多数含まれており、既存の事業経費と併せて少なくとも年間総額 7 億円程度をスーパーグローバル大学創成支援事業本部の直轄事業経費として執行管理することについて合意がなされ、以後、毎年度予算に内在化している。</p> <p data-bbox="261 1836 679 1870">3. 外部資金・寄付金の活用</p> <p data-bbox="312 1881 1337 2000">本学が採択された各種補助事業のうち、特に、以下の事業は、大学のグローバル化に資する取組として、スーパーグローバル大学創成支援事業との関連性が深い。当該事業への取組が、スーパーグローバル大学創成支援事業の成果につなが</p>

るという意味において、自走化に向けた取組として外部資金を活用している。

- 博士課程教育リーディングプログラム
「超成熟社会発展のサイエンス」(2011-2015 年度)
「グローバル環境システムリーダープログラム」(2011-2015 年度)

- 研究大学強化促進事業
『教職一体』による研究活動のグローバルな国際展開を目指して～(2013 年度-2022 年度)

- 大学の世界展開力強化事業
「グローバルイノベーションデザイン・プログラム」(2011-2015 年度)
「グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築」(2011-2015 年度)
「アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム」(2012-2016 年度)
「LL.M. を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム(PAGLEP)の形成」(2016-2020 年度)

- オープンイノベーション機構の整備事業
「慶應義塾大学 イノベーション推進本部～人生 100 年時代の健康長寿を支えるスマート社会の創成～」(2018-2022 年度)

寄付金については、学校法人として従来から定常的に広く募集をしているが、それとは別に、事業計画に基づき、必要に応じて募金活動も展開している。最近では、2012 年 4 月から 2018 年 3 月まで「慶應義塾 教育・研究・医療 環境整備事業」を実施し、募金総額目標の 140 億円を達成した。この事業には大学病院新病院棟建設事業、理工学部創立 75 年記念事業、未来創造塾事業が含まれ、教育・研究・医療のグローバル化とも密接に関わり、スーパーグローバル大学創成支援事業の自走化に間接的に貢献する取組である。

4. プログラムフィー等の徴収

スーパーグローバル大学創成支援事業における本学への受入れ留学生の増加につながる取組のひとつに、短期留学プログラムがある。このプログラムでは、設計・開発のための経費支援を行っているが、実施運営の際には参加学生からプログラムフィーを徴収し、これによって運営経費をまかなっている。すなわち、当初から自走化を想定したプログラム設計となっている。

② 取組内容の年度別実施計画【2ページ以内】**【2019年度】**

1. スーパーグローバル大学創成支援事業基金への資金組入れ
2018年度は2億円を自己資金により組入れ、組入れ額は合計50億円となっている。2019年度には、さらに8億円を組入れ、合計58億円となる計画である。
2. 学内経常費予算への内在化
総額約7億円を予算計上する。
3. プログラムフィーの徴収
短期留学プログラム参加学生からプログラムフィーを徴収し、その経費で運営を行う。

【2020年度】

1. スーパーグローバル大学創成支援事業基金への資金組入れ
2020年度には、さらに8億円を組入れ、合計66億円となる計画である。
2. 学内経常費予算への内在化
総額約7億円を予算計上する。
3. プログラムフィーの徴収
短期留学プログラム参加学生からプログラムフィーを徴収し、その経費で運営を行う。

【2021年度】

1. スーパーグローバル大学創成支援事業基金への資金組入れ
2021年度には、さらに8億円を組入れ、合計74億円となる計画である。
2. 学内経常費予算への内在化
総額約7億円を予算計上する。
3. プログラムフィーの徴収
短期留学プログラム参加学生からプログラムフィーを徴収し、その経費で運営を行う。

【2022年度】

1. スーパーグローバル大学創成支援事業基金への資金組入れ
2022年度には、さらに8億円を組入れ、合計82億円となる計画である。
2. 学内経常費予算への内在化
総額約7億円を予算計上する。
3. プログラムフィーの徴収
短期留学プログラム参加学生からプログラムフィーを徴収し、その経費で運営を行う。

【2023 年度】

1. スーパーグローバル大学創成支援事業基金への資金組入れ
2023 年度には、さらに 8 億円を組入れ、合計 90 億円となる計画である。
2. 学内経常費予算への内在化
総額約 7 億円を予算計上する。
3. プログラムフィーの徴収
短期留学プログラム参加学生からプログラムフィーを徴収し、その経費で運営を行う。

【2024 年度以降】

1. 学内経常費予算への内在化
総額約 7 億円を予算計上する。
2. 基金の運用ならびに寄付金・外部資金の活用
スーパーグローバル大学創成支援事業基金を含む第 3 号基本金の運用果実、事業計画に基づく募金活動、公的資金への応募、産学連携による民間企業からの資金などにより活動資金を確保し、世界トップレベルの研究大学としての活動を維持継続する。
3. プログラムフィーの徴収
短期留学プログラム参加学生からプログラムフィーを徴収し、その経費で運営を行う。